

印刷会社に入稿する場合の データの準備方法(.ai版)

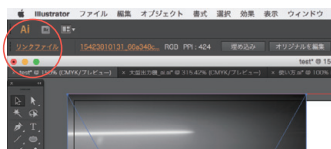
概要

本マニュアルでは、イラストレータで制作したデータを、入稿や出力するために調整するためのマニュアルです。主に、貼り付けた画像、書体について記載しています。なお、PDFに変換する場合は、ラスターライズや書体のアウトラインは必ずしも必要になりません。

画像の埋め込みと ラスターライズについて

イラストレーターは貼り付けた画像データが埋め込まれている場合と、埋め込まれていない(リンク)場合の二つのケースがあります。入稿時は埋め込むか、リンクの画像も含めて渡す必要があります。ここでは適切な解像度に変換してイラストレーター内に画像を埋め込むラスターライズを説明します。

1. 画像をクリックして 埋め込み画像かリンクか確認

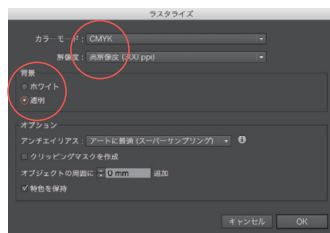
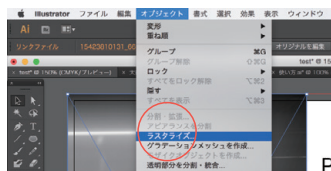


画像をクリックして左上に「リンク」と表示されれば、埋め込まれていない画像のリンクデータです。イラストレーターデータのみ移動させると開くとエラーが出てしまいます。

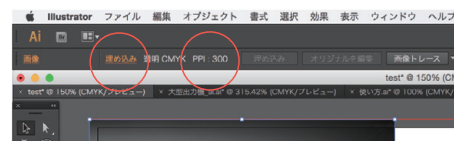
Warning!

一度ラスターライズした場合は、元の解像度に戻すことができません。印刷前の最終工程でラスターライズすることを勧めます。

2. 適切な解像度に変換埋込 = ラスターライズする



ラスターライズしたい画像のみを選択して「オブジェクト」から「ラスターライズ」を選択します。「解像度」を印刷用の解像度である「高解像度(300ppi)」にします。背景は「透明」にしたほうがよいでしょう。(写真の場合は白の部分がないため影響はありません) 埋め込み後に画像をクリックすると「埋込」「300ppi」と表示されます。



Warning!

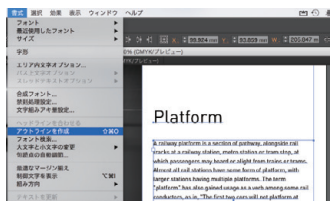
複数画像を選んでまとめてラスターライズすることができますが、レイアウトの変更ができなくなるため、画像ごとにラスターライズしましょう。

Warning!

ラスターライズするとイラストレータのファイルが大きくなります。写真が多い場合や複数ページになる場合はリンクのままにしましょう。

フォントのアウトライン

イラストレーターはファイル内にフォントデータを埋め込みしていません。製作したパソコンで使用した書体が、印刷に用いるパソコンにインストールされていないことがあるため、一般的に入稿時は書体をパスデータに変換するアウトラインをおこないます。



「選択」→「すべて選択」をして「書式」→「アウトラインを作成」を選びます。



テキストデータの変更できない図形のパスデータに変換されます。

Warning!

一度アウトラインすると元に戻すことができません。かならず、イラストレータを上書き保存した後に、「別名で保存」でアウトライン用データを別に作成するようにしてください。

大型出力する場合の データの制作方法(.pdf版)

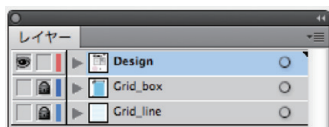
概要

本マニュアルでは、イラストレータで制作したデータを、制作したパソコン以外のパソコンに移動させ、正しく出力する方法を学びます。

イラストレーターの入稿（印刷会社へデータを納品すること）には、いくつかの方法がありますが、本マニュアルで説明する方法は、イラストレータで制作したデータをトンボ付きPDFにして保存する方法です。トンボとは印刷の仕上がり線を示すためのラインのことを指します。PDFファイルにすれば、イラストレータが搭載されていないコンピューターでも出力することができます。

ステップ

1 不要なレイヤーを非表示に



印刷に不要なグリッド等を非表示にするか削除します。

Warning!

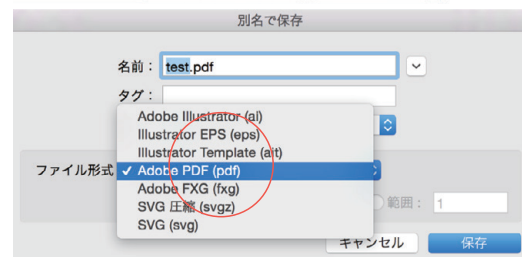
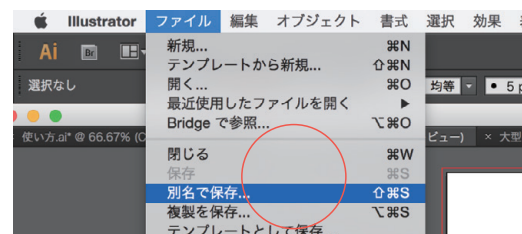
Mac標準のPDFビューワー「プレビュー」では、非表示レイヤーが表示されてしまうことがあります。Adobe ReaderやAcrobatで開くと問題ありません。

2 イラストレーターデータを上書き保存した上で、別名保存でPDFファイル形式にして保存する

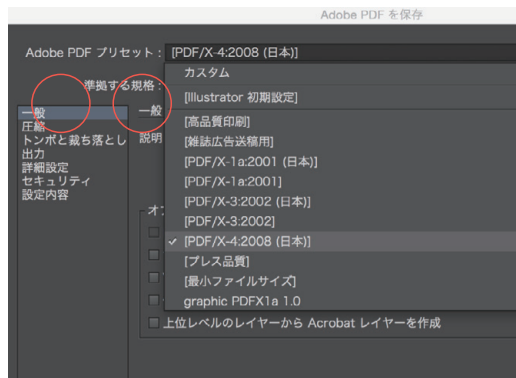
データ制作が完了したら、通常の「保存」をして上書き保存します。その後に「ファイル」から「別名で保存」でファイル形式を「Adobe PDF(pdf)」にします。

Warning!

編集内容を保存せずに、PDFファイルにして保存すると、イラストレータに変更内容が保存されず、PDFファイルになります。一度上書き保存してから別名保存で書き出ししましょう。



3 PDFプリセットの選択

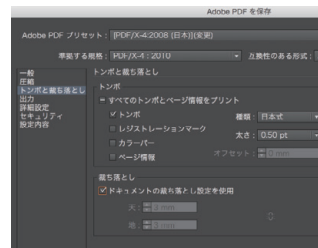


「Adobe PDFプリセット」タブより「PDF/X-4 2008 (日本)」を選びます。

Warning!

目的に応じてPDFプリセットは変更します。例えばメールで添付するような軽いデータを製作する場合は、「最小ファイルサイズ」を選びます。入稿する場合は印刷会社がプリセットを指定する場合があります。また、イラストレータの編集機能にチェックを入れるとデータ容量が重くなります。

4 トンボと裁ち落としの設定

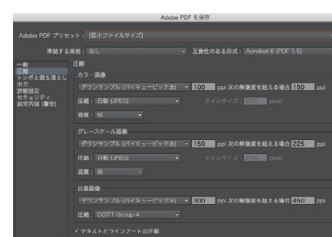


保存の設定画面が出たら、左のメニューの「トンボと裁ち落とし」をクリックして、「トンボ」をチェックしてください。また、「裁ち落とし」は「ドキュメントの裁ち落とし設定を使用」をクリックします。

Warning!

トンボは必要に応じてつけます。大型出力など仕上がりサイズ以上のサイズの紙に印刷する場合は必要です。

5 画像解像度の設定 (任意)



「圧縮」メニューで必要に応じて「画像解像度」の設定をします。この設定によりファイルサイズの容量が大きく変わってきます。例えば、「最小ファイルサイズ」のプリセットではカラー画像の解像度が150ppiになっていますが、印刷すると少しガタガタになります。200-300ppiなどに変更してみるのもよいでしょう。